

あたらしくはいった本 (令和4年4月 貸出開始資料から)

- 小説 彼女が知らない隣人たち(あさのあつこ/著) 幸村を討て(今村翔吾/著) 月の王(馳星周/著) 引力の欠落(上田岳弘/著) アルツ村(南杏子/著) 菜の花の道(藤原緋沙子/著) 阿茶(村木嵐/著) 母子草の記憶(小杉健治/著) 無明(今野敏/著) 朱色の化身(塩田武士/著) 夏の体温(瀬尾まいこ/著) 人面島(中山七里/著) 弊社は買収されました!(額賀滯/著) ブランディングズ城のスカラベ騒動(P.G.ウッドハウス/著) 年年歳歳(ファンジョンウン/著)
- 随筆・詩などの文学 月曜日は水玉の犬(恩田陸/著) 遺す言葉(瀬戸内寂聴/著) カムカムマリコ(林真理子/著) ゆく川の流れば、動的平衡(福岡伸一/著) 老いの正体(森村誠一/著)
- その他の本 87歳、古い団地で愉しむひとりの暮らし(多良美智子/著) 図解身近にあふれる「神社と神様」が3時間でわかる本(後藤泰弘/著) 「アキラさん」は音楽を楽しむ天才(宮川彬良/著) 定年ひとり起業 マネー編(大杉潤/著) すごい酪酸菌(江田証/著)



『彼女が知らない隣人たち』
あさのあつこ
KADOKAWA



『幸村を討て』
今村翔吾
中央公論新社



『月曜日は水玉の犬』
恩田陸
筑摩書房

●新型コロナウイルス感染拡大防止のため、来館の際はマスク着用などの協力をお願いします。

みんなの としょかん



市民図書館

TEL (921) 4646

FAX (921) 4896

http://www.library.dazaifu.fukuoka.jp/

としょかんカレンダー

令和4年	日	月	火	水	木	金	土
6				1	2	3	4
	5	6	7	8	9	10	11
	12	13	14	15	16	17	18
	19	20	21	22	23	24	25
	26	27	28	29	30		

○印の日は、お休みです。

開館時間 午前10時から午後6時まで

金曜・土曜(祝日除く・太字の日)は午後7時まで

特別整理期間のため
右の期間はお休みします

市民図書館	6月20日(月)～29日(水)
すくすく号	6月21日(火)～24日(金)

本は図書館の「ほんのポスト」に返却ができます。ただし、CD・DVD・ビデオは壊れるおそれがありますので入れることができません。

役場文書で見る発掘調査風景よもやま

昭和26(1951)年に設置された「太宰府の都制と文化調査会」は、大宰府史跡の本格的な調査研究のために九州大学・福岡県・文部省が協力して組織したもので、主に考古班・美術班・文献班に分かれて調査が進められました。中でも同年に考古班が九州大学の鏡山猛(かみやま たけし)を中心として行った地形実測調査は、戦後の太宰府における学術調査の嚆矢と言え、この成果を基礎に榎社境内や推定金光寺跡、松倉瓦窯跡などの発掘調査が行われていきました。



～公文書館だより⑧～

水城村役場の文書(旧社会教育課永年文書)には、「考古班調査計画に関して」と題されたペン書きの野紙一片があります。昭和26年6月9日の日付印が押されたこの文書は、7月半ばから約1カ月間実施される実測調査に向け事前の打ち合わせ記録として作成されたものと思われ、調査班の寝食の手配や地元での承諾の取り付けなど、水城村側で準備すべき事項が記されています。調査には鏡山・日野開三郎(ひのの かいざぶろう)ら教員の他、夏休みを利用して九大の学生10人の参加が予定されており、宿泊場

所として「中学校静心亭」を提供、村役場が布団や蚊帳などの寝具を整え、1人1日150円と決められた食事の融通には地元の商店が応じたいは調査会持ちだったとはいえ、長逗留となる若き調査隊十数人の受け入れはこの時期の村にとって大きなチャレンジの一つだったと想像されます。しかし同時に地元にとつてこの一大事件は、太宰府で今後展開される大調査を目の当たりにできるといふ、希代の体験の始まりでもありました。

県文化課が水城村教育委員会に宛てた昭和29年3月11日付の文書からは、当時学業院中学校の生徒が発掘作業に参加していたことが分かります。生徒には、鏡山ら専門家に直接解説をってもらうよう勧められており、うらやましいかぎりの学習の機会が発掘現場で設けられていたことがうかがえます。

【バックナンバーはこちら】

ページID 7241

太宰府市公文書館

藤田 理子